

今月の主な内容

- 1面:ラクロス、日本一ならず
- 5面:2002震災特集
- 8面:タッチさくらボウル・アメフト

神戸大学ニューズネット

NEWS NET

©神戸大学ニューズネット委員会 http://www.std.kobe-u.ac.jp/newsnet/
 関西学生報道連絡共同編集室 = 〒532-0011 大阪市淀川区西中島3-21-9-502
 電話06-6307-1315 FAX 06-6307-1316 メール newsnet@std.kobe-u.ac.jp

この秋、フロムAが新しくなって新刊!

from A

毎週火曜日発売 定価200円(税込)

1月号

日本一の夢、かなわず

6年ぶり決勝進出も完敗 クラブチームの猛攻防げず



全日本選手権決勝戦。懸命に守った神戸大だったが、4-16の大敗。悲願の日本一はならなかった(12月16日・江戸川陸上競技場で撮影=岩生航)

ラクロスの全日本選手権決勝が12月16日、江戸川区陸上競技場で行われた。神戸大はクラブチーム1位のVALENTIAに4-16で敗れ、悲願の初優勝はならなかった。

リーグ4連覇を全日本選手権に出場した神戸大は12月9日の準決勝で同大と対戦。試合は激しい点の取り合いとなり延長戦(サードタイム)までもつれこんだ。MF服部がVゴールを決め8-7で勝利。6年ぶり2度目の決勝進出を決めた。3年連続準決勝で敗退していたこともあり、宮崎選手は涙を流した。

「相手が強すぎた。経験したことのないスピードとテクニックだった(宮崎選手)」「うちのディフェンスが簡単に破られた。さすが日本一のチーム(三宅ヘッドコーチ)と選手、コーチも脱帽するほどの大敗。宮崎選手も「これまでなら勝ったかった」と悔しさを話す。しかし過去5年で最高の成績を残せたことにシメズを始めを考えると上出来。このチームを誇りに思いたい」と最後は満足な様子で1年を振り返った。

サーバダウン相次ぐ どうなる学生部パソコン事情

学生部サーバが、昨年12月ごろから度々ダウンし、様々な被害を出している。12月28日時点で原因と見られていたのは、メールサーバにたまっていった5GBもある大容量のエラーメッセージ。これにより、学生部サーバ全体がダウンし、当委員会を含む学生部サーバのホームページ(http://www.std.kobe-u.ac.jp)で始まるホームページが見られないなどの事故が生じた。エラーメッセージがたまっていた原因は不明だが、エラーメッセージを取り除き、問題は解決されたかに思われた。

しかし、今年に入っても同サーバは度々ダウンしている。原因は依然不明だが、今回の症状は前回と異なっている。学生部担当者「今後またダウンする恐れがある」と話しており、注意が必要だ。(1月7日現在)

学館の設備一新

学生会館のLAN設備が12月に一新された。より性能の高い光ケーブルに変更されたほか、セキュリティの向上も図られている。

406号室のパソコンが一般開放されているなど、自由な使用が可能な反面、部屋を閉鎖し放しにしておくなど、セキュリティに問題があった学生会館。DHCパソコンセンターへの切り替え



写真はイメージです

書籍の入荷、減少か 取次の鈴木書店が倒産

人文系専門書を中心に取り扱っていた取次の鈴木書店が12月7日、東京地裁に自己破産を申請した。取引のあった神戸大生協にも影響が出ている。

神戸大生協は人文系専門書全てを同書店から入荷し、取引全体の3割が同書店のものだった。現在は、取引全体の3割が同書店のものだった。現在は、替えており、書籍が買えなくなった。値段が上がることはないという。

しかし、小回りの利いた同書店の倒産に影響される問題もある。その一つが返品。普通の書籍は入荷から3か月以内の返品できるが、専門書は買い切りで言われ、通常は返品できない。だが、同書店には返品できるような配慮もされていた。

返品できなくなれば、売れ残りの本は入荷に躊躇する。

大学がロゴマーク募集 「愛着を持って使えるロゴに」

神戸大では1月21日から2月15日まで、神戸大のロゴマークを募集する。

現在神戸大には、旧字体の「学」に菊をあしらったシンボルマークしかなく、それも大学名が入っておらず、神戸大の名前を連想させにくい。「神戸大学を強く印象付けるようなマークがほしい」という声が上がっている。大学が今年で創立百周年を迎えるのを機に、記念事業の一環としてデザイン募集が企画された。

応募資格は神戸大の学生、教職員、卒業生など。内閣関係者が対象。庶務課によると「愛着を持ってマークを使えるから」とのこと。

震災特集

震災7年目の学生たち

5面へ

遅めの朝食、大混雑の昼時、授業後の夕食。生協食堂は手頃な値段で神戸大生のお腹を満たしてくれるところの場所。その影には組合員である学生たちにより良いものを提供しようとする生協の奮闘がある。

その一つが人気メニュー「ワーストメニュー」の調査。今年度も昨年7月にいった。組合員の意見を聞き取り込み、より良いメニューを出していくと生協事務の川嶋英次さんは熱心に話す。

神戸大 閑話 ~其の十三~

実際、ワーストメニューに挙がったものは改善を重ねている。例えば、「みそ汁の臭が入っていない時がある」という意見に添って臭いの量はつぎをなくしたり、ラーメンなどの麺のゆで時間をきっちり守るなど、調理態度の徹底を図る。

また、年に2、3回は試食会を開催しており、最近も試食会が冬場のおすめメニューが選ばれた。モニターが大評判を押し出した「担々麺」「焼き鳥丼」などの定番メニューのほか、「ほろろろ」が大人気だったという。

組合員の声を聞きながら改善を図る。「より良い大生生活の提供を目指す生協食堂は、今日も学生のそばに。」

と。採用作品は封筒や便箋などに活用される予定だといふ。

結果の発表は5月11日の創立百周年記念式典の日に合わせて行われる。最優秀賞には副賞として20万円も授与される。

作品募集の告知はすでに掲示や大学ホームページなどでも行なわれている。問い合わせは、平日午前9時午後5時までの間に庶務課庶務課総務掛(電話078-803-15015)まで。

伏流水

大学に入って初めて迎えた新年。あることが僕の心の中で急速に大きくなっていく。

大学に入ってから初めて迎えた新年。あることが僕の心の中で急速に大きくなっていく。

おわびと訂正

本紙11月号のラクロス記事の見出しで「リーグ4連覇ならず」とありましたが、関西リーグは1-3位をファイナル3の成績で決定するため、「リーグ本選を3位で通過の誤りでした。おわびして訂正いたします。」

内容だった。取材の中で直接、被災者の話を聞く機会がなかった。それでも被災者のためのボランティア活動に参加した人に話を聞くことができた。その人によることや、震災は人々の中から、薄れつつあるという。僕は震災報道をするために、このサークルに入ったわけではない。それでも、震災に触れる機会を持つことを今では有意義に感じている。震災を伝え続けなければならない。今までは遠くそんな気持ちで今年1月17日を迎えた。

【中島志志】

DIVE
【動:飛び込む】

DIVE! DIVE! DIVE!

神戸大学ニューズネット委員会は
新入部員募集中です

神戸大学ニューズネット
NEWS NET

ひとりひとりの死を記録

震災犠牲者聞き語り調査会



打ち合わせをする調査会のメンバー(12月17日・神戸大工学部室崎研究室で 撮影=岩生航)

「ひとりひとりの死について詳細な記録を残したい。震災犠牲者聞き語り調査会では震災犠牲者すべてを対象とした聞き語り調査を行っている。

悲劇繰り返さない 調査は遺族ら協力者を探すことから始まる。震災から6年以上が経過し、遺族の所在を知るには極めて難しいが、地道な地域歩きで協力者を探していく。

「犠牲者は数字でひとくくりされることが多いが、実際はひとりひとりに人生があった。その人たちの記録に残したい」と話すメンバーだが、彼ら自身は震災を体験していない。彼らにとって震災は「遠く世界のことで」しかなかった。しかしこの調査で震災を感じ、想像以上の被害、そして遺族の傷に衝撃を受けたという。8人は口をそろえる。「自分たちの活動に」重みを感じる。

震災特集



震災7年目の学生たち

～今だからできること～

阪神・淡路大震災から7年。街は復興し、震災の傷が癒えていくが、被災地に建つ大学でも風化は確実に進んでいる。

その一方、神戸で学んでいるからこそ震災に関わろうとする学生もいる。今、私たちにできること。彼らは必死に答えを探し、震災と向き合っている。

「悲劇を繰り返さない」「次代に伝えたい」。そんな学生たちの声を発信する。

なお詳細はホームページ(<http://www.un-nnews.com/sineai.html>)へ

(神戸大学ニュースネット委員会、関学新月通信社、神戸女学院大学K・C・PRESS編集部 共同編集)

ボランティアに防災知識を セーフティリーダー学生ネット

セーフティリーダー学生ネット(以下学生ネット)は防災・救命に関する基礎的な知識と技能を持った学生の育成を目的に00年4月に設立された。災害救援ボランティア推進委員会の「災害救援ボランティア講座」を受講し、認定を受けた学生、OBで構成された。昨年12月で176名を数えた。

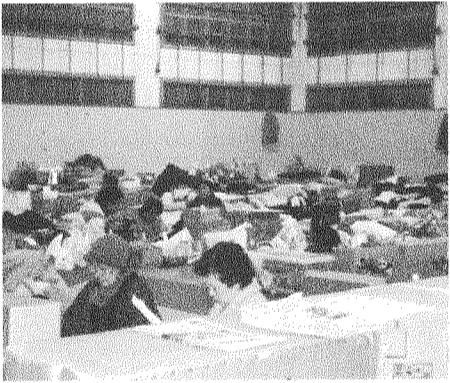
分生がされなかった。その教訓から、ボランティアが、防災や、救命・救急について最小限の知識・経験を持つよう、講習会、交流会などが行われている。神戸への想い 学生ネットを運営する災害救援ボランティア推進委員会の渡辺明子さんは大学生として関東で暮らしてから震災で多くの学生が犠牲になった事その意味を考へるようになったという。神戸から何を学び、今の自分に何が出来るのか。その思いが渡辺さんを動かした。

そんな渡辺さんは今、震災が着実に風化していることに胸を痛めている。「神戸で今を暮らしている学生は次代に震災体験を語り継ぐ、メッセージとして大切な責務がある」としての大切な責務がある。



東京都総合防災訓練を受けるS学生ネットのメンバー(2000年9月1日・提供写真)

神戸大 総合ボランティアセンター



総ボラは活動した学生ボランティアに情報ときっかけを与えること 避難所となった震災直後の神戸大(95年1月27日・神戸大国際文化学部体育館で)

問題とは、普段から地域社会に存在する被災地ではボランティアの可能性があるが、被災地では次々に伝えられないまま、救援ボランティアが消散してしまっている。防衛しなければならなかったと当時を振り返る。

総ボラは会員登録制で、二ノスに対して希望者を募るという形をとっている。登録者は7月に40人、翌年には100人を超え、仮設住宅、児童館、福祉施設などで活動をした藤室さんは「震災の時は高齢者、障害者、在日の被災者が多くいて、震災の枠から離れ、ボランティアの輪はさまざまに分野に広がった。「福祉」にも活動の幅を広げていきたい」と話すのは、現代代表の魚川大輔さん(経営・3年)。これからは地域とコミュニケーションが大事」と話した。

人とのつながり大切に

茶屋明子さん(被災地NGO協働センター)

茶屋明子さん(神戸女大・4年)は被災地NGO協働センターで震災のボランティアに携わり、ホームレスの支援団体を炊き出しなどを行っている。震災当時、神戸の光景をテレビで見て「震災のボラセンターに飛び込んだ。

彼女が震災を体験して、自分、逆に何でも学ぼうという気概で活動に取り組んでいる。しかし、やがて2年の時に草創期を教壇(短大・故人)の講義を聴き、被災地NGO協働センターに飛び込んだ。彼女が病院でソーシャルワーカーとして働いたり、福祉の知識を活かして海外のNGO活動に積極的に関わることが将来の夢。「助け合ったりすることですごく大事な事だと思えます。人とのつながりをもっと大事にしたいですね。学ぶ場所は大学だけじゃない。色んなところに目を向け、一歩踏み出した学生生活をやって欲しいです」と最後に茶屋さんは熱く語った。

編集後記

阪神・淡路大震災から7年。街からも大学からも震災を語るものは少なくなり、昨年行ったアンケート調査では84パーセントの学生が「震災は風化した」と答えた。被災地・神戸の大学に通いながら、私たちが震災を感じる機会は今もほとんどない。

しかし、多くの学生が犠牲となった六甲道の下宿街では未だに更地が残っている。遺族や被災者の心の傷も、7年では癒えるものではない。震災はまだ終わってはいないのだ。

「いまからでもできること」。それはすくなくとも転がっているはずだ。(震災取材班)

人生の出発点に まちコミ 加藤洋一さん

加藤さんは長田区御蔵地1年半活動を続けている。「市民の声を聞くこと」によって、学校ではわからなかったことが実感でき、とても楽しい」と話す。



加藤洋一さん(22) まち・コミュニケーション 明石高専専攻科 建築都市システム専攻2年

加藤さんは被災地の情報発信を落着けた御蔵地がきっかけで、行なっている。加藤さんは震災当時中학교3年生で加古川市に住んでいた。自宅周辺はあまり被害がなく、人ごとだと思っていたが、「地震でつぶれた建物を通りかかった」と感じる。「都市に住んでいると決心するきっかけ」。昨年の夏、普通の人は設計事務所へ行くという実習でいる「場所」がなければ、「現場」の声を聞きた。「まち・コミュニケーション」とも言。

「まち・コミュニケーション」を選んで、1ヶ月で終わるが、人間関係の重要さに気が付かされた」と笑顔で話した。

W Watching vol.10 神大生

タッチフットの神戸大ROOKSは11月24日の東西大学王座決定戦で優勝し、3年連続で大学日本一に輝いた。清水晴代主将は走って投げられるQBとしてプレイでも精神面でもチームをけん引し、勝利に大きく貢献した。

～タッチフット・清水晴代主将～



「今までやってきたことは間違いないけど、夏は猛練習、QB清水の復活、自信を取り戻したチームは秋のリーグ戦で快進撃を続けた。『いきいきしなプレイをしたい』と話した。自身もエースQBとしてチームを引っ張ったが、春シーズンはけがで欠場。チームも春季トーナメント1回戦で敗退するなど、決して順風満帆なスタートではなかった。

「基礎からやり直した」は間違いないけど、夏は猛練習、QB清水の復活、自信を取り戻したチームは秋のリーグ戦で快進撃を続けた。『いきいきしなプレイをしたい』と話した。自身もエースQBとしてチームを引っ張ったが、春シーズンはけがで欠場。チームも春季トーナメント1回戦で敗退するなど、決して順風満帆なスタートではなかった。



タックルを受けながらゲインするWR伊藤 (11月24日・西宮S Tで 撮影:岩田桂典)

アムフット 辛くも1部残留 最終戦で同大下す

関西学生アムフットリーグが11月25日に閉幕した。神戸大は5勝5敗で辛くも1部残留を達成し、辛くも1部残留を達成した。神戸大は5勝5敗で辛くも1部残留を達成した。

3連覇の夢散る



惜しくも日本一を逃した神戸大ROOKS。選手達の目から涙がこぼれる (1月3日・東京ドーム)

タッチフットの日本一を決める第7回さくらボウルが1月3日、東京ドームで行われた。神戸大は関西アムフットリーグに19-27で敗れ、3連覇はならなかった。東西大学王座決定戦で成城大を破り学生チャンピオンとなった神戸大。史上初の3連覇をかけた、社会人チャンピオン・関西アムフットリーグと対戦した。第1Q、動きが固い神戸大だったがQB清水の44ヤード独走TDで先制する。しかし第2QからはアムフットリーグのQB東本WRの神戸大OGホットラインに次々とパスを許してしまい、前半は12-13で折り返した。後半も東本のパスを止めることはできず、本日のTDパスを決められる。対する神戸大は清水、池田の両QBを使い分ける奇襲で応戦。第3Qに清水のキープで1TDを返すが、第4Qに痛恨のインターセプトでターンオーバー。日本一はならなかった。

「緊張して、いきいきしたプレイができなかった」と涙の清水主将。今岡コーチも「東西王座から間隔が空いてヒクに持っていた。なかつた調整ミスが悔やむ。しかし、主力が多く残ることもあり、来年はもっと強くなりますよ」と今岡コーチ。来季は日本一奪還へ向けての戦いと語る。

開幕5連敗で迎えた10日の大産大戦。神戸大はQB林のパスがささへ、34-0で初勝利をあげた。負け、引き分けが入れ替わえ戦を意味する24日の同大戦。3-10で迎えた第4Q6分、神戸大はQB吉野のTDパスで1点差とする。TFPでも吉野が2点コンバージョンを執念で決めて逆転に成功した。残り10秒、スタンドの観客からカウントダウンが起る。その声に「0」を告げる選手たちは飛び跳ね、喜びを爆発させた。バランスアタックで上位を狙った神戸大。打倒三

来年度から学生部が移転 「身近な学生部に」



現在本部2階にある学生部が、2002年度から鶴甲第1キャンパスA棟2階ホールに移転する。移転の主な理由は学生部の知名度向上、全学共通科目を行う鶴甲第1キャンパスに移転すること、1、2年生にもっと身近に感じてもらいたいという狙い。移転工事は昨年末からの予定だったが現在遅れており、1月上旬から行われる予定。移転先のホールはすでにソファやなどの備品が取り除かれ、がらんとしている(写真)。

産業界で救助ロボットの実用化を進める「国際レスキューシステム研究機構」がNPO法人として設立されるのに伴い、災害救助ロボットの研究で知られる神戸大の田所諭・工学部助教授が会長に就任する。田所助教授は1980年生。93年から神戸大助教

国際レスキューシステム開発研究機構発足へ 「災害救助にロボットを」 会長に田所・工学部助教授 強はならなかったが、国本主将は「精神面の成長」を強調。「同大戦での団結を忘れないでほしい」と後輩にメッセージを送った。

神戸大学

サークル総覧 2002

掲載希望団体募集中!

① 掲載無料
② 紙面とホームページに掲載
③ 新入生に活動をPR

制作・著作
NEWS NET

詳細はHP (<http://www.std.kobe-u.ac.jp/newsnet>) で連絡先 岩崎昂志 (090-9703-2446)

3日間なら頑張れる!!

簿記3級 3日間速修コース

- 大阪(梅田・難波・天王寺・石橋・枚方・岸和田)
- 神戸三宮 ●京都四条 にて毎月好評開講中!

同時受付!! 簿記3・2級 6日間速修コース

3日間講義 (10時~18時) ※1h休憩

特典 税務検定(6時間) 英文会計(6時間) 建設事務(6時間) 答案添削指導(5回)

入学金免除 = ¥22,000 (税込) デキスト代込

資格もやっぱりECC <http://www.ecc.co.jp>

ECC簿記学院 AFP講座 4月開講(8月合格) 9万円 ※入学金免除

社労士講座 1・2月開講(8月合格) 12.6万円 ※入学金免除

案内書無料急送 ☎0120-018-144 (24時間受付) E-mail:e-license@ecc.ac.jp